2人に1人は受け継ぐ意思なし!?

2015 墓事情

最新スタイルは ゆうパックで 納骨 3万円ナリ

今や2人に1人は墓を受け継ぐ必要はないと思っているという。宮崎に墓がある鈴木さん（70歳）もそのひとりだった。

「年金暮らしだからね。乳がんの妻の治療費もあって毎年、盆暮れに帰省して墓参りするのは、経済的にも体力的にもつらかった。一人で帰っても、飛行機代や電車代、土産代などで、1回に6万円近くかかる。40歳の子供はいますが、独り身で孫はいないから、墓のことは私の代で何とかしなくちゃと思い、3年前に墓じまいしたんです。両親と祖父母までのお骨は、自宅で手元供養しています」

高齢化の今、墓の維持・管理は負担が大きい。子供がいなければ、なおさらだ。鈴木さんのような悩みを抱えている人の解決策になっているのが、手元供養だ。

NPO手元供養協会代表の山崎譲二氏が言う。

「手元供養は、ペンダントやプレート、小型の骨壺などに入れて、身の回りに置いたりして供養するスタイルです。協会が発足した10年前は、最愛の人を亡くした喪失感を和らげるため、身につけるスタイルが主流でしたが、ここ数年は墓問題がクローズアップされ、墓じまいとセットで利用する方が急増しています。手元供養に残すお骨は、自分を育ててくれた両親や祖父母など面識のある人まで。それ以前の先祖のお骨も含めて合祀墓で供養するのです」

墓じまいとセットで手元供養や合祀墓に

墓じまいは、合祀墓でも散骨でも、元の墓を更地にして、お骨を〝引っ越し〟するなどの手続きが必要で、大体30万円程度かかる。手元供養にするのは、その一部だ。そもそも墓がない人は、初めから親や妻などのお骨を手元供養することもできるという。

手元供養に使う入れ物は、小物なら2万円前後から、骨壺は数十万円とピンキリだ。

実は、ゆうパックはお骨の送付が可能で、定款で認められている！　それを使った「送骨」を行っているのが、埼玉県熊谷市にある見性院（けんしょういん）だ。

「ご契約いただくと、当院にお骨を送るための専用段ボールとゆうパック送付状をお送りします。送骨方法マニュアルの通り、お骨を納めて送り返していただくと、本堂にて俗名で供養。合祀墓に納骨するのです。サービスを始めて1年ですが、北海道から九州までお問い合わせがあります。お体が不自由でなかなかお参りできない方が最愛の方を亡くされるケースが、典型的な利用パターン。お子さんがなくて、墓じまいとあわせて利用されるケースもあります」（見性院事務担当者）

送骨には、すぐに供養して納骨する「合同納骨」と、10年間骨壺に保管してから納骨する「個別納骨」があって、料金はそれぞれ3万円と10万円だ。

一定期間保管後に合祀墓に移すタイプは今後、孫がいない家庭を中心にますます人気が高まるとみられる。お参り場所でカードなどをかざすと、立体駐車場みたいに遺骨が搬送され、お参りする寺院も登場しているが、「他人と同じ墓は嫌」という人もいるだろう。

「そういうご遺族の希望をかなえるには、散骨ですが、残された人にとってはお参りの対象が海や山など漠然とするのがデメリット。散骨当初は、『サッパリした』と言っていても、のちのち後悔する方が多いのです。ですから、すべてを散骨するのではなく、一部を手元供養にしておく方が無難です」（山崎氏）

手元供養したお骨などは、自分が亡くなったときに棺（かん）に入れてもらえばいいという。